

1.UTokyo WiFi について

趣旨説明

学生自治会が平成 30 年 6 月に行った前期課程生を対象とするアンケートでは UTokyo WiFi への不満が全項目の中で特に高い割合を示しました。また、平成 29 年度学部交渉において、学部側は講義棟の Wi-Fi がつながりにくい箇所については優先順位をつけて要望すれば改善を検討すると回答しました。

これらの経緯を受け、学生自治会では平成 30 年 6 月から UTokyo WiFi に関する意識調査・通信状況調査を行い、講義棟に関する要望書を教務課に提出しました。要望書に記載した講義棟については、今年度から優先度に従って Wi-Fi 設備が強化されると考えられますが、継続的に講義棟における Wi-Fi 設備改善に取り組むよう求めます。

加えて、UTokyo WiFi は講義棟以外の場所でも学習に利用されています。

学生自治会が 10 月に前期課程生に対して行なったアンケートでは、図書館では UTokyo WiFi をほぼ毎回利用すると回答した学生は 7 割近くに達しました。図書館における Wi-Fi の利用法としては、ALESS/ALESA 及び初年次ゼミナールの論文作成の際に学内からのみアクセスできる論文や学術情報を検索すること、授業の予復習の際に難しい用語の検索をすることが特に挙げられます。また、edX などの講義映像の閲覧、Web プログラミングなどにも利用されています。

また、食堂・オープンスペース(コミュニケーションプラザ・MM ホール・各種ラウンジなど) では友人との学習及び自主的な学習会などにもしばしば使用されていることもアンケートにより明らかになりました。具体的には、プレゼンの練習が友達とできる、のオンラインで文書を共有できるため勉強会などにはインターネットがあると効率的だという声がありました。特にオープンスペースは利用者の約半数が毎回 Wi-Fi を利用していると回答しました。副次的な効用として、オープンスペースの通信環境が改善すれば昼休みの利用率が高くなり、食堂混雑解消に貢献する可能性が見込めます。

以上の理由より、講義棟のみならず、上記の施設でも Wi-Fi が必要であることを認識し、通信状況改善への取り組みをするよう求めます。

加えて、以下の項目について学部側に回答を求めます。

- ・平成 30 年 12 月現在、講義棟における UTokyo WiFi の設備増設への取り組みはどの程度進展しているのか。
- ・自分の端末が UTokyo WiFi よりもネットワーク"UTokyo Guest"に接続しやすい、勝手に接続されてしまうという情報が学生自治会に寄せられているが、UTokyo Guest の方が電波強度が高いのか。また、もしそうであるならば、それは何故か。

学生自治会が 6 月から 7 月にかけて実施した UTokyo WiFi に関するアンケートには

前期課程生の 6 分の 1、1 年生の 4 分の 1 が回答しており、Wi-Fi 環境の問題への関心度が非常に高いことが伺われます。研究室などにおいて独自の Wi-Fi 環境を持っている後期課程生、大学院生に比べて前期課程生は Wi-Fi 環境へのアクセスがしにくい状況になっています。インターネットが学習に不可欠になってきた現在、学生の学習環境改善のためにも、大学の魅力度向上のためにも、Wi-Fi 設備増強は喫緊の課題です。 学生を代表し、Wi-Fi 設備増強の実現を強く求めます。

2.食堂について

趣旨説明

生協食堂(カフェテリア若葉及びダイニング銀杏)の混雑は深刻な問題です。学生自治会の実施した要望調査においても多数の学生が食堂混雑の改善を求めています。

現在、駒場 I キャンパスにおける飲食物提供施設・設備としては生協食堂の他に、ルヴェソソヴェール駒場、イタリアントマト、生協購買部、生協フードショップ、菓子パン等自動販売機及び飲料自動販売機などがあります。また、飲食可能箇所としては、生協食堂、ルヴェソソヴェール駒場、イタリアントマトの他に屋内外に点在する 700 席程度のベンチ、MM ホールなどのオープンスペース があります。

生協食堂の混雑は、キャンパスに滞在する学生数千人に対して、飲食物提供施設の提供能力が著しく不足していることが最大の要因と認められます。さらに、学生の中には実家からの仕送りとしてプリペイドカード「学食パス」に依存した生計を立てている人もいます。学食パスは生協食堂でのみ利用可能であるため、生協食堂への集中の一因であると考えられます。

また、食堂以外の飲食物提供施設・設備については、その提供能力に対してベンチやオープンスペースの収容能力が著しく劣るため、利用が進んでいないと考えられます。また、屋外のベンチは清掃が行き届いていないものが多く、さらに雨天の場合には利用出来ないため、安定した飲食可能な場所として認識されておられません。したがって、ベンチの実効的な収容能力は 700 人を大きく下回ると認められます。

加えて、要望調査においては上記の問題点の他に、飲食物提供施設増強の具体的な提案、イタリアントマトの魅力が薄く生協食堂に利用が集中しているという多数の指摘、生協食堂内部のレイアウトに問題があるという指摘、生協食堂の営業時間が短いという指摘、飲食物提供施設がキャンパス東部に偏在しているという指摘がありました。

上記の理由により、下記の事項の実施を求めます。

- 1.移動販売車(フードトラック)及び仮設販売所の営業を許可し、これを誘致すること。
- 2.1 号館以西に冷凍食品自動販売機及び飲料自動販売機を設置すること。
- 3.学食パスの利用可能範囲を、ルヴェソソヴェール駒場、イタリアントマト、生協購買部及び生協フードショップへ拡大すること。
- 4.飲食可能箇所を拡大し、滞在している学生全員が着席して昼食をとることができるための

キャンパスの整備、または既存施設の柔軟な運用をすること。

5. 飲食物提供施設の混雑を分散させるため、運営事業者選定の過程に学生の意見を反映すること。

6. 雨天時の食堂混雑を緩和するために、屋内のベンチ数を増加する、または屋外のベンチに屋根を設置するかガゼボ(東屋)を設置すること。また、屋外のベンチに机を設置すること。

加えて以下の項目について学部側に回答を求めます。

・現在東京大学は東大生協と駒場 I キャンパスの食堂混雑解消について交渉しているようだが、具体的には今後どのような対策を実施することが考えられているのか。

3. 教室利用について

趣旨説明

現在教務課が開室している既存の自習室制度は、試験期間中の 1 週間程度で期間が短いこと、さらにテスト前の方が学生の需要が高いことを踏まえて、試験期間の約 2 週間前から自習室を開室することを要求します。また、学生自治会が前期課程生に対しておこなった調査では静かな自習室に加えて話し合えるような喋れる自習室が欲しいという要望が多くありました。そこで、現在、静かな自習室として教務課が開室している自習室に加えて、喋れる自習室としての役割を果たす自習室を新たに設けることを要求します。場所は、学生の要望が多かった 5 号館を中心とすることを要求します。開室時間に関しては、どちらの自習室も試験期間前は 2 限終了後の 12:10 から 21:00 まで、試験期間中は従来通り 8:30 から 18:30 の時間帯に開室することを求めます。加えて、自習室制度はあまり学生に周知されていないことから、広報の徹底を要求します。

4. 五月祭翌日について

趣旨説明

五月祭は東京大学における学生の自主的活動の場、一般の方々との交流及び情報発信の場として重要な行事であり、前期課程生の 99%が参加しています。現在、五月祭翌日には午前休などの対応措置はありません。しかし、五月祭翌日の午前中の授業を補講日や夏季休業を調整して不都合なく後日に移動することができれば、さらに効率的に学習を行うことが可能になるでしょう。五月祭に両日参加した学生は本来休日に取り得る学習時間を確保できず、予復習や課題が不十分な状態になっているためです。以上より、五月祭翌日は午前休とすることを求めます。

5. 駒場 I キャンパス北地区再開発について

趣旨説明

平成 30 年 8 月 10 日の駒場コモンズ計画に関する協議にて、学部側は駒場 I キャンパス

北地区における民間収益施設建設の目処が立っておらず今後の計画見通しが不透明であるということを学生側に伝達しました。民間収益施設建設は駒場新体育館の維持には不可欠ですが、これまで民間収益施設の建設計画について学生の意見が反映されてきたとは言えません。ロッカー棟・シャワー棟の再編、第一体育館の代替施設の建設などが予定されている北地区の再開発事業については、利用者優先の観点からも、そして「大学の全構成員自治」の観点からも学生の意見を聴取する必要性は高いと考えられます。北地区の再開発事業が先送りされた今こそ、学部・学生の協力関係によって施設整備を進めて行くことを求めます。

尚、学生自治会が前期課程生を対象に行ったアンケートでは、駒場 I キャンパス内で整備して欲しい施設として、食事施設・自習スペース・飲食物を販売する施設が多く挙げられました。これらの施設について今後のキャンパス再開発で設置を検討することを要望します。

加えて、以下の項目について学部側に回答を求めます。

- ・駒場新体育館建設及び仮設体育館解体、並びにトレーニング体育館解体は現状どのようなスケジュールで実施されることになっているのか。
- ・平成 30 年 12 月現在、駒場 I キャンパス北地区の整備方針として教養学部及び東大本部内では具体的に何らかのプランの検討、決定はされているのか。

6.学務システムについて（文書回答項目）

趣旨説明

東京大学では、履修登録や課題提出に用いる学務システムとして UTAS、ITC-LMS、ALESS・ALESA・FLOW のホームページなどが使われています。しかし、学生自治会で実施した学生への要望調査では「どこでなにを登録すればいいのかわかりにくい」などといった不満の声が多く上がっています。また、学務システムが複数のサイトで構成されていることによって必要な情報を取りこぼしてしまい、履修や進学選択の登録ミス等の不都合の一因ともなり得ます。詳細アンケートでも、67.9%の学生が学務システムの統合を希望しています。「統合しないまでも、UTAS と ITC-LMS 間を移動する際にパスワードを再入力しないで済むようにしてほしい」といった連携の強化を望む意見も合わせて寄せられています。

UTAS については、詳細アンケート（回答数 580）で 415 人の学生が「シラバス検索が使いにくい」、275 人の学生が「レイアウトが見にくい」と回答しています。シラバス検索機能は、学生にとって受講する授業を吟味する上で重要な役割を担っていますので、サイト全体のレイアウトも含めて改善の余地があります。また、「サイトが重い」という意見も寄せられています。これは主として成績開示や進学選択結果公示など、学生にとって重要な告知がある際にアクセスが集中してサーバーが重くなるようです。従って、単純にサーバーを強化するのではなく、成績開示時間を文系と理系でずらすなどの運用次第で効果的な解決をはかることができると考えられます。さらに、ITC-LMS については、詳細アンケート（回

答数 580) で 348 人の学生が「教員の ITC-LMS 活用が不十分」だと感じているようです。このように、サイトそのもののだけでなく学生側、教員側ともに活用方法についても改善点があるようです。

加えて、詳細アンケートでは「学務システムをアプリ化してほしい」といった意見も寄せられています。京都大学の教務情報システム (KULASIS) がアプリ化されたように、学生はスマートフォンでも便利に使えるような学務システムを求めています。

以上のことから、学務システムの統一(UTAS と ITC-LMS の統合)、学務システムのアプリ化及び予算の拡張により学務システムの機能の改善を要求します。また、学務システム自体を改善しつつ教員や学生に利用方法を周知させ、より活用されるように促すことを要求します。

学部システムのアプリ化 例：京大の KULASIS アプリ

7.既習外国語について (文書回答項目)

趣旨説明

教養学部前期課程のカリキュラムについて、英語科目の学生への負担が大きすぎるという意見が数多く寄せられています。学生自治会が 11 月に前期課程生を対象に実施したアンケートで、英語授業ごとに他授業と比較した負担度を訊ねたところ、「極めて重い」と回答したのが ALESS については履修者の 60.1%、ALESA については履修者の 64.5%でした。英語中級や FLOW についても「重い」「極めて重い」との回答が半数を超えています。これらの英語授業について、「論文の作成方法が身についた」「知識と興味の幅が広がった」との意見がある一方で、「課題に追われて他授業の予復習が全く出来なかった」「基礎実験の予習が間に合わなかった」との声もあります。特に、これら負担の重い英語科目の履修 Semester が、初年次ゼミナール (文科) や基礎実験の履修時期と重なった場合に他授業の予復習に支障をきたしていることが分かりました。学生によって各英語授業の履修時期が異なるせいで、学生間に大きな負担の差が生じることは不合理であり、進学選択にも影響しかねない重大な問題です。この理由から、ALESS/ALESA、FLOW、英語一列及び英語中級の履修する時期を選択制にすることを求めます。